

令和7年度 小平市立 学園東小学校 学校評価報告書

学校教育目標 人間尊重の精神を基調とし、平和を愛し、社会の変化に主体的に対応するとともに、自立し、すすんで社会貢献に努め、地域で共生し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成するため、教育目標を「やさしく 元気な がんばる子」と設定する。

目指す学校像(ビジョン)
 【目指す学校像】 笑顔と夢があふれ コミュニティで育む 学園東 ～人にやさしく 自分につよく 元気がんばる 子どもの育成～
 【目指す児童・生徒像】 ○やさしい子(思いやりのあるやさしい子) ○元気な子(心も体も元気な子) ○がんばる子(目標をもってがんばる子)
 【目指す教員像】 社会人・教育公務員としての自覚ある態度をとる。こどものよいところを認め、可能性を引き出していく。保護者と連携し地域とのつながりを大切にする。

前年度までの学校経営上の成果と課題
 ・学力向上について、各教室や個別の支援を充実させてきたが、基礎的基本的な学習内容の定着に課題が見られる。児童の学習意欲の向上やICTの活用促進が必要である。
 ・挨拶ができる児童が多いが、言葉遣いについて課題が見られる。人権に関わる適切な言動や人との関わり方を指導し、学年・学校全体で対応するなどいじめの早期発見・解決に向けた取組を推進する。

	具体的方策	第1回評価		指標に基づく成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	東京ベーシックドリルを活用し、朝学習で取り組ませる。学年必達目標「学園東小これだけは学習編」を実施する。授業改善推進プランを活用し、児童の実態に応じた授業改善を実施する。学習補助員を配置する。	3.9	3.3	・週1回ベーシックドリルに取り組んでいても、なかなか合格できず、学期末に慌ただしくやり遂げる必要があり大変な傾向がある。専科の先生にも補助に入ってもらえるようにすると助かる。また、学期当初から、テストや作業が終わった後などに、意図的に取り組ませるよう声掛けをしていくのがよい。	3.8	3.6	・東京ベーシックドリルの活用は非常によい取組だ。今後の積み重ねが重要だ。また、活用頻度が適切か検討してもらいたい。飽きずに楽しくできる声掛けがあるといい。 ・図書委員会集会やブックトーク、ブックラック設置は、よい取組だ。低学年から多く本に触れさせ、授業等で図書室を活用してほしい。 ・低学年からの少人数指導は、算数に苦手意識をもつ子どもにとってとてもよい取組だ。少人数指導の効果を数年後に検証してほしい。また、研究授業の成果を普段の授業に取り入れてほしい。	・どの学年も東京ベーシックドリルが最後まで終わるよう取り組ませてきた。新しい算数の単元に入る前に、全学年の既習内容と関連のあるプリントを意図的に扱うことで、学力向上につなげる。より効果的な使い方を考えていく。授業改善推進プランを意識しながら、学力向上につながるよう授業改善をすすめることができた。
	低50冊(学校おすすりめ本5冊含む)中40冊(同3冊)高30冊(同1冊)を目標に幅広く読書に取り組ませる。学校の推薦本も選本するよう読書カードを工夫する。全学年で図書を用いた調べ学習を行う。	3.5	3.6	・各学年ブックラックを教室の近くに置き、図書館の本を手に取りやすいようにした。おすすりめ本の制度を理解していない児童もいたので秋の図書集会で呼びかけていく。読書週間にブックトークを実施する。	3.3	3.5	・図書集会でおすすりめ本について呼びかけを行った。学年が上がっても、自主的に読書貯金の用紙に書こうとする意識ができていて良い。次年度以降も各学年ブックラックを教室の近くに置くことや、ブックトークなど、継続していく。	・図書集会でおすすりめ本について呼びかけを行った。学年が上がっても、自主的に読書貯金の用紙に書こうとする意識ができていて良い。次年度以降も各学年ブックラックを教室の近くに置くことや、ブックトークなど、継続していく。
	児童が学習内容をわかる喜びや学ぶ楽しさを感じるための校内研究(令和7年度は算数)を行い、授業改善に取り組む。校内研究で検討した手立てや成果のあった取り組みを日常の学習で実践する。	3.6	3.2	・低学年の研究授業での提案を通じて、自分の考えた調べ方を選択して確かめる楽しさは、子どもたちが意欲的に学習に向かう姿につながっている。低学年の時から算数が苦手とならないよう、今年度から始まっている低学年の少人数の指導の在り方については、今後考えていく必要がある。	3.7	2.9	・昨年度からの研究の実践を、今年度活用することができた。研究内容を今後も継続して使えるようにしていく。低学年の少人数指導については、ランチルームの机・イスの数が限られているなど課題が見られたため、学習環境を今後整えていくことが必要である。	・昨年度からの研究の実践を、今年度活用することができた。研究内容を今後も継続して使えるようにしていく。低学年の少人数指導については、ランチルームの机・イスの数が限られているなど課題が見られたため、学習環境を今後整えていくことが必要である。
体力向上	体育朝会での計画的な取組や休み時間の外遊びの奨励、体育の授業改善を行う。保健(体育科)や家庭科の学習や食育、保健指導を通して健康やかに成長しようという意識を育む。	3.5	3.5	・体育朝会で色々な運動に触れることができ、子どもたちは楽しみにしている。体育委員の児童による休み時間の取組も良かった。今後なわとびカードをより良いものに改善し、紹介していく。	3.6	3.8	・運動する機会が減ってきているので体育朝会を楽しみにしている児童が多いのは、とてもよい。今後は運動が苦手な児童も楽しく体を動かす機会を増やしていけるとよい。	・今後も体育朝会を計画的に行っていく。また、外に出づらくなる1、2月の中休みに持久走やなわとびの取組を実施していく。 ・学年に応じたテーマで養護教諭による保健指導を実施している。栄養士による食育の授業の他にも、企業による食育の出張授業を積極的に取り入れていく。
健全育成	挨拶について生活指導目標や「学園東小これだけは生活編」に沿って計画的に指導する。学習中に丁寧語をつかったり、敬称「～さん」をつけて児童同士で呼び合ったりすることができるよう指導する。	3.6	3.2	・グループ活動のときや掃除のとき等、子ども同士の言葉遣いが気になる。全体で言葉遣いについて呼びかけ、校内に掲示等を行い意識付けを行っている。教員一人一人の意識に差があるので、場に応じた言葉遣いを確認して、指導を行っていく必要がある。	3.6	3.1	・自分から挨拶をしてくれる子が多く、嬉しい。時々、驚くような言葉を遣っている児童があるので学校と家庭、両方での対応が必要だ。 ・たてわり班活動は、高学年がリーダーシップを発揮できるよい機会である。貴重な体験なので続けてほしい。たてわり班でスポーツ大会等をする機会を増やしてはどうか。 ・アンケートで困っていることを伝える機会があるのはとてもよい。アンケートに出てこないこともあるので日々の生活の中でよく見守ってほしい。SNS上での問題は、保護者と連携して対策していく必要がある。	・年度初めの「学年人権集会」で言葉遣いについて指導するだけでなく、毎学期のはじめにも継続して指導を行っていく。また、学級で月末の振り返りを行うときに、言葉遣いの大切さについて確認していく。
	たてわり班活動による異年齢集団の交流をすすめる。たてわりロング集会や全校遠足を実施し、相互に関わる機会を通して、相手の立場や気持ちを考えるように指導する。学級活動で話し合う力をつける。	3.8	3.1	・全校遠足では6年生がリーダーシップを発揮し、仲が深まった。6年生の縦割り昼休みの進行も慣れてきている。まだ校庭遊びの経験がないが、けがのないようにしていく。学級会のアイテムを希望のクラスに配布した。特活の日に学級会の公開を行った。	3.7	3.2	・6年生がリーダーシップを発揮している。次年度は集会委員会の活動の中でたてわり班による活動を入れてもらう。 ・今年度、学級会で使用する掲示物を配布した。次年度は台本や議案カードなどその他のものも、提案していく。	・6年生がリーダーシップを発揮している。次年度は集会委員会の活動の中でたてわり班による活動を入れてもらう。 ・今年度、学級会で使用する掲示物を配布した。次年度は台本や議案カードなどその他のものも、提案していく。
	いじめの未然防止(生活指導朝会や学級指導)、早期発見(年に3回ふれあいアンケートを実施)、早期対応(子ども支援委員会の充実)の取組を組織的に行う。保護者や関係機関等と連絡を取り合う。	4	3.7	・ふれあいアンケートを通して、いじめの早期発見と解決ができた。今後も児童が困ったときに躊躇なく自分から相談できるよう信頼関係を深める働きかけを継続し、啓蒙していく。	3.9	3.5	・ふれあいアンケートを通して、いじめの早期発見と解決を図っていく。SCにつなぐなど児童が相談しやすい環境を整えていく。低学年の頃から困っていることを自分から発信するやり方を指導していく。	・ふれあいアンケートを通して、いじめの早期発見と解決を図っていく。SCにつなぐなど児童が相談しやすい環境を整えていく。低学年の頃から困っていることを自分から発信するやり方を指導していく。
学校の基盤づくり	農園での体験活動やボランティア活動、地域と協力して行う避難訓練等、各学年で地域と連携した教育活動を実施し、体験活動を充実させる。	3.6	3.5	・昨年度より学年事務の引継ぎが円滑に行われ、地域と連携した活動は引き続き実施されている。今後も学校経営協議会委員との連絡の場を通して、各学年の学習で地域人材を活用できる取組を検討していく。	3.9	3.9	・児童農園やお仕事体験など、地域と連携した活動に協力していただき、とても素晴らしい。児童が、将来「社会のつくり手」になるという視点で、地域と連携した活動を見直していく必要がある。 ・教職員で児童の情報や必要な支援を情報共有し、組織的に取り組んでいることは、子どもにとって心強いことだと感じる。	・児童農園での活動やお仕事体験、各学年で実施された出前授業などを通して、子どもたちが充実感や満足感を味わうことができた。充実した活動を今後も継続できるよう、各学年での引継ぎや資料の保管を実施していく。
体力向上	電子化等で会議の時間短縮や事務作業効率化を図る。教職員各自が週に一度の定時退勤日を設定する。仕事へのやりがいを感じられるよう各自が業務へのこだわりや達成目標を設定する。	3.9	3.5	・困っていることを共有していけるよう生活指導主任と特別支援コーディネーターが積極的に聞き取りを行い、児童への対応を検討していく。	3.8	3.7	・担任が困っていることを聞き取り、共有を図っていく。研修を行い、くすのき教室への入室方法の理解を図る。 ・今年度、子ども支援委員会で情報を共有し、不登校児童への確実な対応をとる体制ができたので、今後も継続した取組を行っていく。	・担任が困っていることを聞き取り、共有を図っていく。研修を行い、くすのき教室への入室方法の理解を図る。 ・今年度、子ども支援委員会で情報を共有し、不登校児童への確実な対応をとる体制ができたので、今後も継続した取組を行っていく。
電子化等で会議の時間短縮や事務作業効率化を図る。教職員各自が週に一度の定時退勤日を設定する。仕事へのやりがいを感じられるよう各自が業務へのこだわりや達成目標を設定する。	3.4	3.1	・SSSとの事務作業分担や書庫データの活用等により、退勤時刻は早まっている。今後も作業負担軽減のため、常習的に行っている取り組みや打ち合わせ、事務作業等の精査や効率化を行っていく。	3	2.9	・業務の効率化や在校時間が短くなっている傾向はよいことだ。業務の効率化には専門的な支援が必要。都に予算化をお願いしたい。学校経営協議会も支援していく。	・学習補助員や非常勤講師による学習活動の支援、SSSによる事務作業補助等により、成果指標の値が昨年度よりも改善した。今後も校務の精選やAIを活用した業務の効率化などを実施し、引き続き校務改善を行う必要がある。	